

## 令和元年度部会の開催結果

令和元年5月29日～30日に国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターにおいて3つの部会を開催し、各委員による今年度の取組予定に関する情報共有及び意見交換を行い、第25回石西礁湖自然再生協議会での決定を予定する「石西礁湖自然再生全体構想行動計画2019-2023（案）」について検討が行われた。

また、重要海域における工事への対応方法について意見交換をするとともに、各種モニタリング結果を総合的に解析する作業チーム（タスクフォース）を設けることについて提案がなされた。

### 1. 各部会の開催概要

#### ○海域・陸域対策部会

日 時：令和元年5月29日（水）10：00～12：40

出席者：22名（個人6名、団体・法人10名、行政9名 ※重複3名）

結 果：赤土対策やオニヒトデ対策等を継続実施することに加え、赤土だけでなく栄養塩を含めた包括的な対策の必要性について確認された。また、各域における工事の実施予定や新たな技術を取り入れたモニタリングの試行や実験の実施検討について情報共有された。

#### ○普及啓発・適正利用部会

日 時：令和元年5月29日（水）13：30～16：00

出席者：24名（個人6名、団体・法人12名、行政9名 ※重複3名）

結 果：環境教育や自然観察会の実施、ウェブサイトやSNS等による情報発信について情報共有されたほか、新たな取組として、サンゴ学習で用いる評価ツールの試行や、行政（教育委員会や観光協会）・団体・企業との連携強化が提案された。

#### ○学術調査部会

日 時：令和元年5月30日（木）10：00～12：20

出席者：18名（個人7名、団体・法人6名、行政7名 ※重複2名）

結 果：各モニタリング調査の実施結果が報告され、今年度も継続的に実施することが確認された。また、行政をはじめ様々な主体によって各地で実施されている調査について、情報共有を強化し横断的な状況把握を行っていくこと、調査結果について専門家等による集中的な解析を行う作業の場が必要であること、等の意見が出された。

## 2. 今年度の取組予定

⇒資料8

## 3. 部会で議論された事項

### ○重要海域における工事・事業について

- ・ 出席した委員より、「第16回協議会で承認した重要海域の保存区で行われる可能性がある浚渫工事に対し、協議会として見解をまとめられないか。」旨の議題提案があった。
- ・ 様々な主体で構成される協議会においては、個別の事案に対しての見解をまとめるのは難しいが、協議会の目標に大きく関わる、あるいは、重視すべき重要海域への重大な影響が懸念される事案があった際に協議会等で情報共有の場を設けること、必要に応じて事業主体等に助言していくことなどの対応を適宜検討していく方針とすることが確認された。
- ・ また、重要海域については設定から年数が経過してきており、改めて協議会内で共有を図る必要があることから、関連情報を更新し、第25回協議会で共有することとなった。

⇒資料9

### ○モニタリング結果等の科学的解析等支援する作業チーム（タスクフォース）の設置について

- ・ 各種モニタリング調査の結果が毎年蓄積されていることに対し、十分使いこなせていないという指摘がなされ、現場をよく知る専門家を集めた作業チーム（タスクフォース）を設置し、科学的な解析や検討を行い事務局機能の強化を図ってはどうか、旨の提案があった。
- ・ 賛同する意見もあったため、事務局で開催方法等を検討し第25回協議会で提案することとした。

#### <事務局提案>

- ・ 石西礁湖自然再生協議会学術調査部会の中に、少数の専門家等から構成される作業チームを立ち上げて、各種モニタリング調査のデータ等を解析、検討して、事務局における科学的検討の強化を図る。
- ・ 作業チームでの科学的検討を踏まえて、学術調査部会において実際の取組に反映するための議論を行い、その検討結果を協議会で報告するとともに、一般に対しても分かりやすい内容で情報発信する。
- ・ 作業チームのメンバーについては、検討するテーマに応じて協議会（学術調査部会）に参加する専門家や現場をよく知る調査員等の中から事務局が数名程度を選任する。